



(名城病院航空写真)



今年の抱負

国家公務員共済組合連合会
名城病院長 早川 哲夫

今年も昨年同様に、医療の質と安全の向上をめざして、職員一同努力致します。皆様の御支援、御協力をお願い申し上げます。

今春も昨年の春と同様に新しい臨床研修医が名城病院に参ります。昨年臨床研修を開始した研修医は全員順調に成長しました。この春からは新人の研修医を立派に指導できるだけの経験、知識をそなえたと期待しております。立派になったとはいえ、幼い兄弟と同じく両親や年長の家族の協力があって、毎日が無事に過ごせるわけです。名城病院の職員は勿論、地域の皆様方のあたたかい御支援があれば、昨年にも増して一層良い診療ができると思っております。

最新式のCTが固もなく動き出します。どれ位素晴らしいかとというと、心臓全体の動きを一瞬の間に六十枚の写真に分けてとることが出来ます。この画像データをもとに心臓の血管を立体的に浮きあがらせて示すことが出来ます。血管の細い部分、つまった所も手にとるようにわかります。同様なのが、脳、脊髄、腹部でもはっきりとよくわかります。今までよりも、病気の

場所が正確にわかる分だけ、診断や治療も正確になり、より一層治療効果が上がると思います。地域の診療所の先生からの紹介の患者様のCTもスムーズにとれるように準備しております。御期待下さい。

今まで、人間ドックの枠が少なく、御利用に御迷惑をおかけしておりました。一日当たりの人数を増やし、また、最新のCT利用のオプションも用意致しました。御利用をお待ちしております。

名城病院では、「良い医療を安全、確実に」を目標に努力しております。その甲斐あってか、昨年三月八日の日本経済新聞の「経営充実度」病院ランキングでは全国二〇〇床以上の一九七四病院中六十三位、また、十一月の日経トレンディ誌の居心地の良い病院ランキングでは全国総合七〇位に、四〇〇床以下の病院では十七位に、東海・中部エリアでも九位にそれぞれランキングされました。今年もランキンングの充実と安全の一層の向上をめざしてがんばるつもりです。皆様の御支援、御協力をお願い申し上げます。

最新式マルチスライスCT

導入!!

名城病院では、2月14日より全国初となる(研究機関等は除く)最新式の64列マルチスライスCT装置を導入いたします。これにより、非常に初期の段階から病気の発見が可能となります。

詳細は「放射線Q&A」のコーナーで解説しておりますが、ご関心をお持ちの方は主治医、放射線科窓口までお尋ねください。

名城病院 ホームページ

リニューアル!!

名城病院ホームページが2月中旬リニューアルいたします。新しいURLは

<http://www.meijohosp.jp>

と変わります。

病院からの最新のお知らせや、みなさまのお役に立つような情報を掲載してまいりますので、ぜひアクセスしてください。

無剃毛脳外科手術

名城病院 脳神経外科
藤井正純



脳神経外科の手術では長い間、手術の前に髪の毛を剃る、すなわち剃毛するというのが、伝統的に行われてきました。これは、髪の毛があると消毒が不十分になりやすい、ガーゼも浮いてしまっただけでピツタリはれない、あるいは髪の毛が不潔だ、手術がやりにくい、などの理由だと考えられます。しかしながら、これらの理由は本当でしょうか。実は科学的に確かめられたわけではないのです。

髪の毛は本来人間あるいは動物を守るものとして存在してきました。また、細菌などが繁殖しやすいものではありません。第一細菌

の繁殖があれば、その髪の毛は傷んで折れたり抜けたりするでしょう。さらに洗髪が行われていれば、不潔視しなくてよいかもかもしれません。また剃毛することによる弊害もあります。カミソリをあてて剃毛をすると、どうしても、細菌など外的から身を守る役割を果たしている皮膚まで傷つきますし、わずかですが出血することもあります。これこそ、細菌の感染・増殖を助けるものです。最近、欧米だけでなく、わが国でも、髪の毛を剃る必要性がないのではという観点から、剃毛をほとんどしないで脳外科手術を行う施設が出てきており、こうした施設での手術成績が論文として報告されています。毛を剃った場合と剃らなかった場合で、手術後に手術の傷口の感染（膿んだり、髄膜炎になったりすること）がどのくらい起こったかを見ても、両者に統計的

有意差はありませんでした。剃らなかった方が、少しばかり感染が少ないくらいです。すなわち、しっかり工夫をして消毒を行えば髪の毛を剃らなくても問題はないのです。

こうした流れを受けて、私ども名城病院でも、積極的に無剃毛手術に取り組んでいます。また、髪の毛の培養を行うなど科学的に正当性を証明しようと努力しています。髪の毛は、勿論、剃ったとしても、また生えてきます。しかし、手術後、髪の毛が残った患者様は皆、髪の毛が残ってよかったと言ってくださいます。早期社会復帰にも役立ちます。傷も髪の毛のおかげで目立ちません。我々が髪の毛を剃らなくて本当によかったと思う瞬間です。手術を受ける立場になるべく立って、何が正しいことが常に考える必要があると思う今日この頃です。

部活部の活動報告

8階病棟
山頭美樹

みなさん、こんにちわ。部活部です。もう私たちのことをご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、部活部とは、何をやるというわけではなく、その時その時、チームの1人が言い出したことをみんなでやろう、爽やかな汗を流そうではないか、ということコンセプトに活動している仲間のことです。

結成は去年。始めは同じ職場のメンバーが主だったのですが、今年はニューフェイスも加わり、一層賑やかになりました。そんな中、今年も名古屋シティマラソンに参加致しましたので、みなさんに活動報告をしたいと思います。

今や、シティマラソンは我ら部活部のメインイベントとなってお

ります。マラソンと聞くと、みなさんはフルマラソンが頭に浮かぶと思いますが、私たちが参加したのは、ハーフでも10kmでもなく…4kmです。なにせ、メンバーは誰一人として練習をしていないのですから…。この距離がベストであり、ギリギリ走れる距離なのであります。しかし、気合いは十分。去年はおそろいのTシャツで参加しましたが、今年はマッチョな体がプリントされた肉体美エプロンを身にまとい、みんなで完走を目指しました。

「今年はゆっくり走るわ」と言っていたのに、いざスタートすると負けず嫌いが発揮し、チピッツをどンドン抜きさる人もいれば、仲良くおしゃべりしながら走る人、あくまでも自分のペースで走る人。個性豊かなメンバーではありますが、それぞれが無事完走を果たしました。おめでとう！！

それに部活部には欠かせないマ



ネージャーもそれぞれの腕を振るい、みんなの荷物を両手にかかえ、カメラマンの仕事もこなしてくれました。メンバー全員でさわやかな汗を流した後は打ち上げで盛り上がり、実はみんなこっちが目的…？いやいや、そんなことはありませんよ！

今回の活動を通じて、仲間をもつということは素敵なことだな、と改めて実感しました。私はこんな仲間がいることを幸せに思います。みなさんも、大好きな仲間と爽やかな汗を流してみたいかがですか？それでは、どうぞ今年もよろしく願いいたします。

happiness !!

戦禍のイラクより 「CT研修」に

放射線科技師長
長谷川 貴彦

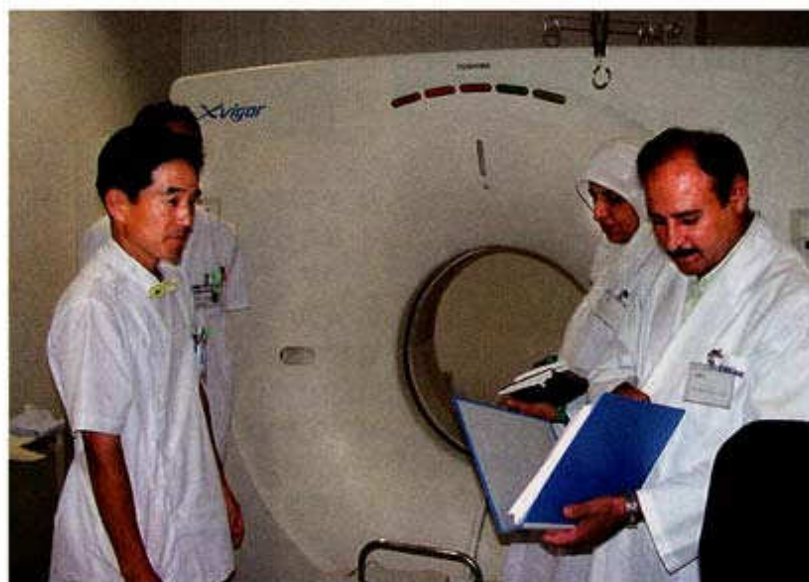


平成16年10
月4日～10月7

日の4日間、イラクの都市バスの
の病院で技師を務めるアブドルフ
セイン・アリさん(51歳)とワファ
ア・バーデル・アブダリさん(43歳)
がコンピュータ断層撮影(CT)
装置の撮影技術習得・維持管理を
学ぶ目的で名城病院に来院されま
した。イラクへの医療支援を続け
ている名古屋の市民団体「セイ
ブ・イラクチルドレン名古屋」か
らの依頼により実現したもので
す。

イラクでは旧政権下で医療が立
ち遅れる一方、湾岸戦争以降は劣
化ウラン弾の影響が指摘される癌
患者が急増しているそうです。バ
スラの医療関係者は診断能力が向
上するハイテク医療機器の導入を
強く要望しており市民団体からの
寄贈により叶えられました。

アリさんによると、現在人口約
140万人でイラク第二の都市バス
ラには、CT装置が一台しかない
とのこと。届けられるCT装
置は日本の自衛隊が派遣されてい
るサマワも含むイラク南部地域の
住民の為に活用されるそうです。



診療を受けるためには約6ヶ月の
予約待ちとのこと驚かされまし
た。特にその一台が故障した時
には約500キロ離れたバグダット
まで行かなければならないそう
です。日本のような設備がある訳
もなくベッドも不十分な状態で
の治療であること、又がん治療
のプロトコルはあるそうですがミ
サイル攻撃などで道路が破壊され
病院に辿り着けない患者、30年
近く三つの戦争・経済制裁による
日本では信じられない医療事情
を伺い心が痛む思いでした。

4日間という短い期間でしたが
このような形で遠いイラク国民
の方に少しでも関わりを持てた
こと、イラクに於ける医療事情
を考えさせられたことなど有意
義な日々を過ごし、こちらが勉
強させ

られることの方が多かったよう
に思われます。装置の組み立て・
装置設置利用に於ける電力事情・
放射線防護など心配事もたくさん
ありますが、国を背負ったお二人
の意欲的な姿勢に大きな感動を
受けました。

バスラでの後の状況を報告して
いただく約束をして4日間の研
修を終えました。今ごろバスラ
では日本で学ばれたことを十二
分に発揮されイラク国民のため
にCT装置をフル稼働で使いこ
なし御活躍されていることと思
います。



我が家のペット



私の実家には小鳥のセキセイインコの雌「ボコちゃん」がいます。
11年前に我が家の一鳥(人)として入籍しました。セキセイインコは大切に
育てると10年前後生きるそうですが、11歳になったボコちゃんはまだ
まだ元気いっぱい。遊び放題、わがまま放題の優雅な日々を送っています。
我が家のボコちゃんだけでしょうか、ちょっと変わった面白い行動をとりま
す。私が帰省してボコちゃんと目が会うと鳥籠から飛び出てきて身体にま
とわりつき甘えるしぐさをします。指にとまると決まって尾っぽを上げて
私の顔をじっと見つめ、固まってしまう。いつものように身体をさすつ
たり、ちょっぴり強くかいてやると気持ち良さそうに小さな鳴き声を「ピー
ピー」。久しぶりに帰って来た主人に甘えることができ喜んでいただけ
でしょうか!? 今年はボコちゃんの(トリ)年。今年もきっと元気で家族に
愛嬌を振りまいてくれることでしょう。
(事務部 金澤隆夫)

放射線 Q & A

放射線科(画像情報室)

平成17年2月より、名城病院では、64列マルチスライスCT撮影装置が他病院に先駆けて導入されます。画像革新ともいわれる程の画像が撮れる最新テクノロジーを駆使した機器だそうですが、そのあたり専門的なことは置いて、具体的にどのようなものなのか、編集委員が画像情報室スタッフに素朴な質問をぶつけてみました。

Q マルチスライスCTは画像革新といわれる最新機器だそうですが、具体的にはどのような画像がとれるのでしょうか。人体や内臓の詳細な立体画像がとれるということですか。

A 簡単にいえば、より速く、より詳細な画像が撮影できます。全身の検査が可能です。心臓を例にしてみますと、心臓は常に動いている臓器で従来のCTでは、うまく撮影することができませんでしたが、64列のマルチスライスCTでは、約7秒程度の息止めでデータを収集することができ、そのデータを0.5mm間隔で400枚

程度の断層画像を作り、最新のコンピュータ技術で図1のような鮮明な心臓の立体画像が得られます。

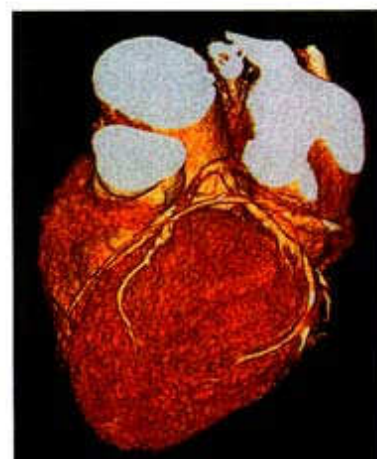
Q その画像を利用して、どのように私たちの診断に役立つのでしょうか。

A その立体画像を心臓に血液を送る冠動脈に沿って展開した画像(図2)にして、血管の狭窄や閉塞の程度を診断していきます。従来、冠動脈の検査にはカテーテルを直接血管に挿入する血管造影法が必要不可欠でしたが、CTによる冠動脈検査は、腕の静脈から造影剤を注射するだけで、図2のような画像が撮影できますので、患者様の体の負担も少なく、入院も必要としません。もちろん、これは心臓のみに限られたことではなく、脳の血管等においても可能ですので、脳梗塞、脳出血等の診断でも、同様の結果が得られます。

Q 最近、よくいわれる放射線の被曝が心配ですが、そのあたりはどうでしょう。

A 確かに、より細かな検査を行うとその分、単純に被曝は増えますが、今回導入されるマルチスライスCTには、患者様毎の体格に

合わせた最適なX線の量で撮影できる制御機構を備えていますので、約40%程度の被曝低減が可能です。又、被曝を1/2に低減できる画像フィルターも備えており、安心して検査を受けていただけます。



心臓の3D画像(図1)



冠動脈狭窄(図2)

血流のある部分は白く表示されます。(白矢印)狭窄部が濃淡の差として現れます。(赤矢印)

名城病院診療等のご案内

■診療科目

内科・循環器科・小児科(小児循環器)・外科
整形外科・脳神経外科・心臓血管外科・皮膚科・泌尿器科
産婦人科・眼科・歯科口腔外科・神経内科

※神経内科及び午後の診療等、詳しくは 医事課 (052)201-5311
内線2132 にお問い合わせ下さい。URL <http://www.kkr.or.jp/meijo>

※医療福祉に関するお問い合わせは、医療福祉相談室 内線5105まで

■診察受付時間

新患受付 午前8:30~11:30まで
再来受付 午前8:00~11:30まで

■面会時間

平日 午後0:30~8:00まで
土・日・祝

但し、①小児科病棟は、午後7:00まで

②ベビーの面会は、
午後0:30~1:30まで
午後3:30~4:30まで
午後6:30~7:30まで の3回です。

③ICU室への面会は30分以内に限らせていただきます。

■診療案内

休診日 土曜日・日曜日・祝日
年末年始(12月29日~1月3日)・創立記念日(11月6日)

■所在地

〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-3-1
TEL (052)201-5311 FAX (052)201-5318

編集後記



寒中お見舞い申し上げます。平成16年4月より1階エレベーター西に、患者様に喜んでいただくためのミニギャラリーを開設し、写真展やつまみ絵展を定期的で開催してまいりましたが、これまでの作品展はいかがでしたでしょうか。少しは、気持ちが和みましたでしょうか。患者様からは、「作品の一つ一つを見てホッとします。」とか「楽しみにして、病院に通って来ます。」とのご意見も寄せられております。これからも色々工夫を重ね、楽しい作品展を開催して行きたいと考えておりますので、ご期待ください。皆様方からの出展をお待ちしております。ミニギャラリーを通して、患者様や地域の方々との和をはかり、親しまれ、喜ばれ、信頼される病院になるよう、努力しなければならぬと思っております。(M.M)